

避難行動訓練教材 EVAG を用いた防災教育の取り組み

国土防災技術株式会社 ○山田知瑛里, 斎田友理子, 土佐信一
清水彩香, 中村清美, 眞弓孝之

1. はじめに

近年、価値観や人生観の多様化に加え、男女共同参画社会の浸透や働き方改革などライフスタイルの多様化が進んでいる。よって、「個」の生活やプライバシーの確保を希求する傾向が強まっており、その結果、コミュニティ力が衰退し、共助を支える地域防災力もなかなか育たない現状がある。

2015 年に開発した避難行動訓練教材 EVAG の取り組みも 3 年が経過し、イベント参加者は約 1,200 名を上回った。ワークショップ実施後にはアンケートを行い、参加の感想やコミュニティの防災力強化を進める上での課題、ワークショップでの気づきの傾向について分析を行っている（眞弓, 2016）。中でも、行政や住民の立場の違いによる自助・共助・公助の知識と理解の差が大きく、このような意識の違いは、防災教育を行う上で非常に重要な要素と言える。

今回は、大学生や行政職員、地域住民など約 650 名を対象に EVAG を用いたワークショップを実施し、参加者のタイプ別による自助・共助・公助の意識傾向の違いについて分析した結果を報告する。

2. シミュレーション方法と分析内容

EVAG のワークショップの流れを図 1 に示す。豪雨による土砂災害・浸水被害が差し迫る中、避難行動を考えるシミュレーションをロールプレイ形式で疑似体験して出てくる「家族と連絡が取れない」、「日本語がわからない」などの悩みを付箋に書き出していく。その後、書き出した悩みを参加者同士で共有し、具体的な解決策を話し合い、その解決策を誰が担うのかを考えるグループワークを行う（図 2）。そして、グループワークで分類した自助・共助・公助の数を集計し、参加者別の割合を求めた。

参加者のタイプは①大学生（防災専攻）、②大学生（防災非専攻）、③行政職員、④地域住民（地域防災

活動経験あり）、⑤地域住民（地域防災活動経験なし）、⑥防災士の 6 タイプに分類した。

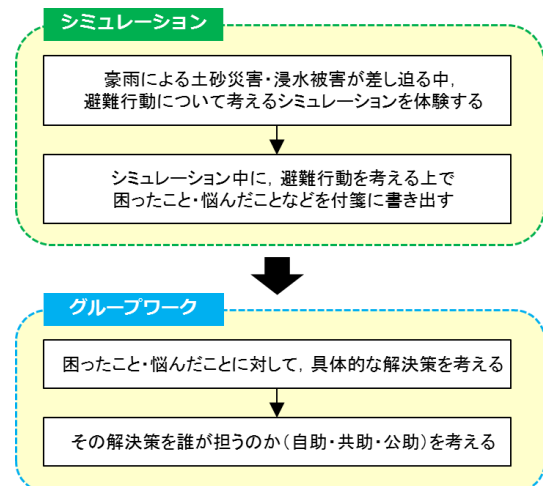


図 1 EVAG ワークショップフロー



図 2 グループワークの実施状況

3. 結果

分析結果を図 3 に示す。3 項目のうち、自助の割合が最も高いのはタイプ②、共助の割合が最も高いのはタイプ④、⑤、⑥、公助の割合が最も高いのはタイプ①であった。一方で、共助の割合が最も低かったのはタイプ①、②、公助の割合が最も低かったのはタイプ④、⑤、⑥、3 項目とも均等だったのはタイプ③のみだった。

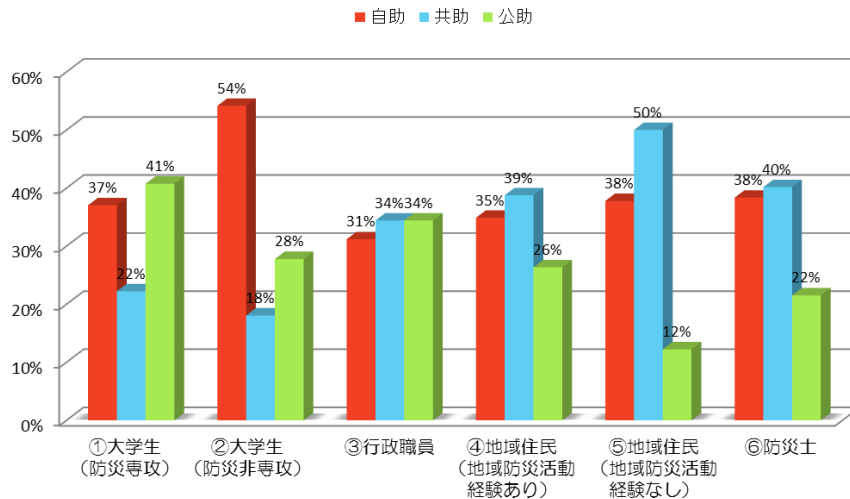


図 3 参加者のタイプ別 自助・共助・公助の割合

4. 考察

タイプ①は、参加者の防災に関する知識が豊富であるが故に、「自助が解決すべきこと」、「公助が解決すべきこと」の判断がはっきりしていたことから、公助の割合が高くなったと考えられる。

タイプ②は、参加者に防災の知識があまりなく年齢も 10 代後半～20 代前半と比較的若いことから、他人と助け合わなくても個人で解決できるという意識が高くなり、自助の割合が高くなった。一方で、ご近所付き合いや災害時の公的機関の役割などの認識が希薄なため、共助・公助の割合が低くなったと考えられる。

タイプ③は、公的機関として対応すべき解決策のほか、個人や地域コミュニティで対応できる解決策など様々な視点から課題を考察したことから、3 項目とも均等な割合になったと考えられる。

タイプ④、⑤は、3 項目の分布は似ているが、タイプ④の方が公助の割合が高い。これは参加者本人に地域防災活動の経験があり、個人の防災力に加えて公的機関との連帯が不可欠と理解しているからと考えられる。

タイプ④、⑤、⑥は地域の自治会などに所属していて防災の知識がある参加者が多かったため、個人だけでなく他人と協力し合う解決策の提案が多かった。一方で、災害時は公的機関の対応が遅れてしまうことを理解しているため、公助の割合が低くなったと考えられる。

5. おわりに

以上のことから、参加者の立場によって自助・共助・公助に対する意識の差が大きいことがわかった。この結果から、タイプ別に不足している援助の理解と今後のあり方を検討する必要がある。

今後は、多様化した家族やコミュニティの実態を理解した上で、地域防災力を向上させるためには、高齢者から若年層までの世代間でのコミュニケーションをどのように活性化できるか、普段から顔が見える関係をどうすれば実現できるかなど、各地域でオリジナリティに溢れた取り組みが議論されることが重要である。EVAG がこうした取り組みの基点となることを期待するとともに、地域コミュニティの地域防災力が向上するための取り組み（独自のルール作りなど）を支援したいと考えている。

6. 参考文献

- 1) 佐藤亜貴夫, 中村清美, 眞弓孝之 (2015) : 参加型避難行動訓練教材 (EVAG) の開発, 平成 27 年度砂防学会概要集, B-390-391.
- 2) 眞弓孝之 (2016) : 避難行動疑似体験教材 EVAG による地域防災の課題抽出, 日本地すべり学会関西支部シンポジウム, 2016 年 4 月.